

動物たちの夢のなかで 嫌われたくない

小笠原 岳

明星大学建築学部

詩人・川崎洋(1930 - 2004)の作品に「動物たちの恐ろしい夢のなかに」という詩がある。わずか6行の短い詩で、現在は小学6年生の国語の教科書に掲載されている。先日、私の長男が学校の宿題としてこの詩を音読していた。長男の音読を聞きながら、競走馬用厩舎の温熱環境に関する研究を始めたころを思い出した。

趣味が高じて競走馬用厩舎に出入りを始めた初夏のある日、忘れられない光景を目にした。都市部に立地するその厩舎はコンクリート造で、地盤はアスファルト。強い日差しを受けて地盤も厩舎自体も蓄熱している。同じ造りの厩舎が整然と20棟も建ち並ぶ敷地内に緑はほとんどなく、まさにコンクリートジャングルである。必然的に厩舎内の温度も高くなるため夏期は冷房必須の状況で、ほとんどの厩舎で空調設備が導入されている。厩舎関係者は少しでも状況を改善しようと、競って厩舎の南面に遮光ネットを設置していた。しかし、陸屋根(勾配の無い平面的な屋根)となっている屋根部分の対策を行っている厩舎は皆無である。夏期における日射受熱量が最も大きいのは屋根面(水平面)であり、南中時においては南面の5倍に及ぶ。建築環境工学を専門とする者にとっては初歩的な知識ではあるが、厩舎関係者、ましてや馬にとっては当然ながら知る由もない。この光景を目にしたとき、誠に勝手ながら建築環境工学を専門とする人間としての責任(動物たちに対して)を感じてしまった。

以来、現在に至るまで全国各地に存在する競走馬・乗馬用厩舎の温熱環境を調査し、効果的な暑熱対策の検討を進めてきた。一連の研究成果はホースセラピー施設(支援が必要な子供たちのこころの療育のために馬とのふれあいを提供する施設)の新築計画に活用され、当該施設は2019年度のグッドデザイン賞・キッズデザイン賞を受賞した。その後、競走馬用厩舎の研究は豚舎の暑熱対策の研究へと繋がる。夏の暑さは豚の生育を妨げ、生産性を低下させる要因となっており、研究成果の一部を当学会の2021年学術大会で発表させていただいた。

動物たちの夢のなかで建築環境工学の専門家が嫌われないように、これからも動物たちと真摯に向き合っていきたい。



写真1 ミストが設置された馬房(馬は気持ち良さそうだが、言葉で伝えてはくれない)